

山口市芸術家育成支援事業

第8回やまぐち新進アーティスト大賞

ノミネート作品展

山口市には文化を大切にする気風があり、創造的な芸術活動が身近な暮らしや、まちのなかに息づいています。山口市芸術家育成支援事業は、将来一層の活躍が期待される本市のアーティストに賞を贈ることで、創作活動を奨励し、また、発表機会の提供を行うことにより、アーティストの育成を図るとともに、地元のアーティストを地域や住民が支える仕組みづくりを目指すものです。

このたび、やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会により最終選考にノミネートされたアーティストを、その作品とともに紹介いたします。

応募アーティスト数：9名

最終選考ノミネートアーティスト：5名

たかはし もとすけ
高橋 基介

テラダ サチコ

はらだ かすあき
原田 和明

むかう
夢果有

やまぐち いさお
山口 功

(50 音順・敬称略)

第8回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員

足立明男（山口情報芸術センター館長）

井生文隆（山口県立大学教授）

石崎泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監）

兼原啓二（山口短期大学教授）

斎藤郁夫（山口県立美術館副館長）

大和保男（陶芸家）

(50 音順・敬称略)

	ふりがな アーティスト名	たかはし もとすけ 高橋 基介		
	年齢	29	創作活動の拠点	大内
	芸術家として 目指す方向性	木目金という日本の伝統技法は、過去に一度廃れてしまった歴史があり、一般の方々への知名度は決して高いとは言えません。 私はこの美しい金属工芸を様々な方に知っていただきたく、私のモノづくりの始まった、ここ山口で制作活動が続けていきたいと思っています。		



総木目金玉飾簪

日本の伝統技法である「木目金」を、鍛金、彫金の技術を駆使し、日本の伝統的な装身具、かんざしを制作いたしました。作品全体を燻すことで、木目模様を際立たせ、自然と調和した作品に仕上げました。

素材：銅、真鍮



	ふりがな アーティスト名	テラダ サチコ		
	年齢	30	創作活動の拠点	白石
	芸術家として 目指す方向性	仕事も制作もライフワークです。細くとも長く制作・発表活動 続けることで、関わる方々に芸術やデザインの楽しみ方や参加 する道が多様にあることを知ってもらいたいと思います。		

イラストレーション群 「hotchpotch(ハッチポッチ)」

ラムネのプールに潜む潜望鏡、ホットケーキの上の姉妹、世界で唯一の楽器を演奏する少年……幼い頃の夢や日常の些細な願望など。不思議と何かを連想させるイラストレーションの数々。



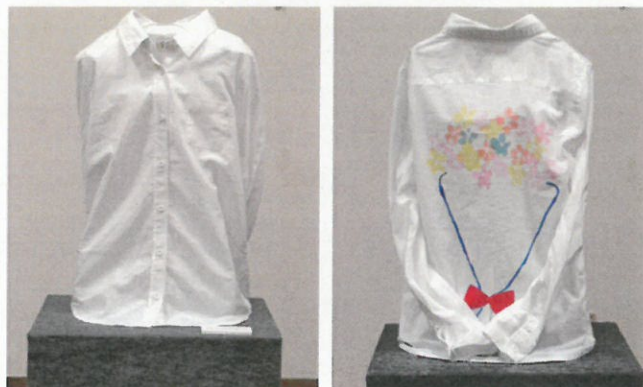
スマホケースデザイン 「vegetabler(ベジタブラー)」

日常使いのアイテムだから、もっと楽しく、ちょっと変なら、より面白く。



シャツデザイン「bouquet(ブーケ)」

こころを込めて、花束を。



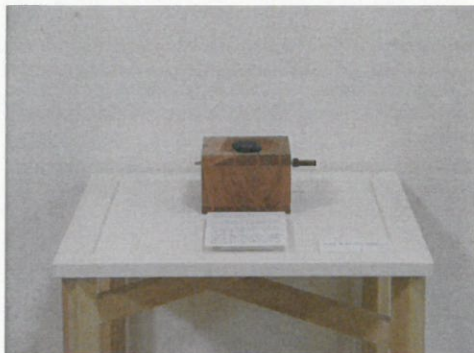
	ふりがな アーティスト名	はらだ かずあき 原田 和明		
	年齢	41	創作活動の拠点	秋穂
	芸術家として 目指す方向性	今後も山口市秋穂に拠点を置いて制作を続けながら、国内外で作品を発表していきたいと思っています。 現在、山口市をテーマにした作品シリーズを制作中です。		

パンドラの匣

ハンドルを回すと、木箱が勢いよく開き、チーンという音とともに栗が飛び出します。

さらにハンドルを回し続けると、栗が下がり、木箱の蓋がゆっくりと閉まります。

木箱が開くときと閉まるときで動き方が違うところと、飛び出した栗が一旦、止まってゆっくり下がっていくところの仕組みを考えるのが大変でした。栗のリアルな着彩にも注目していただきたいです。



ライク ア ローリングストーン

ハンドルを回すと、石がまるで生きているかのように転がります。ボブ・ディランの名曲「LIKE A ROLLING STONE」から着想を得ました。

歌詞の中では「How does it feel?(どう感じる?)」というフレーズが繰り返されます。こちらの作品も転がる石を見て「あなたならどう感じますか?」と問いかける思いで作りました。

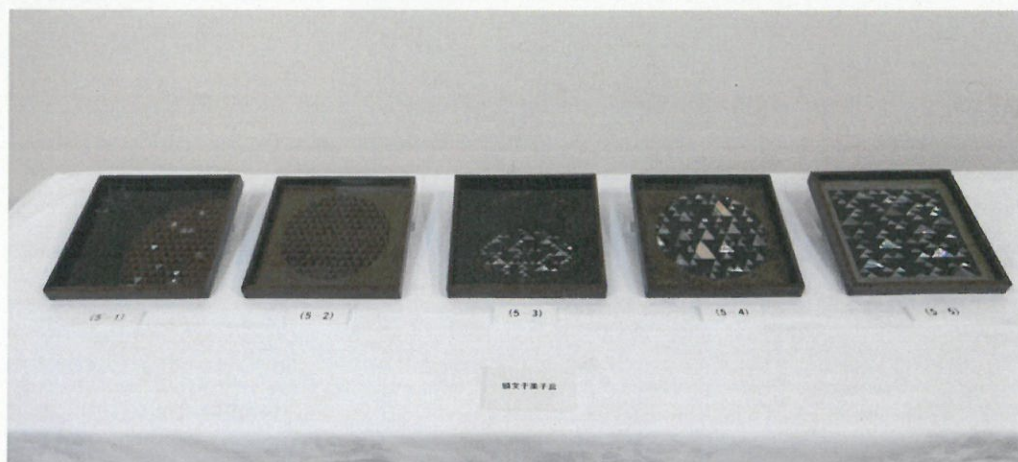
石の動きには磁石の引き合い、反発しあう力を使っています。石が箱から落ちないように、木箱の上を皿状に彫ったのが工夫した点です。石は実際には木でできていますが、石らしく見えるように、ブラックウォールナットという堅めの木を使い、海で拾った石を参考に何度も色を塗り重ねています。

神託

- 1 木箱の正面のスイッチを上に向けて電源をONにします。
- 2 木箱の上部のボタンを押すと、「あっち・むいて・ほい」のリズムで、木箱がノックされる音がします。
- 3 ノック音の後で、金色の指先がランダムに右か左を向きます。あっちむいてほいのゲームをしたり、日常生活において左右どちらにするべきか選択に迷ったときに決めてもらうことができます。
- 4 使い終わったら、正面スイッチを下げてOFFにしてください。
* マイコンボード、Arduino(アルドゥイーノ)でモーターやソレノイドを制御しています。初めて手掛けた電源を使用する作品です。



	ふりがな アーティスト名	む か う 夢果有		
	年齢	78	創作活動の拠点	大内
	芸術家として 目指す方向性	漆の道を目指す人々の将来に備えて、漆の木の植栽及び漆についての 出前講座を通じて、実技より先ず若い人に「漆」とは何かとすることを伝え たい。さらに、将来的には山口市あるいは山口県産の漆が採れるようにな れればと思う。 私に残された時間はそう多くはない。前述の二項について何らかの方法で 実現を望む。		



鱗文干菓子盆

○五枚組に共通するもの

材質 側板…樺

底板…桐

○塗りの方法で五枚組に共通するもの

側板 三方拭き漆仕上げ

外底部分乾漆二度蒔き

一度目は中塗研ぎ後、これを塗り込めて再び研ぎ直し後、二度目を蒔いた。この上より伊勢早漆を三度塗り重ねた。(手が滑らぬ様にザラツとした感触を残すことにした。)

○(5-5)(5-4)(5-3)(5-2)

鱗文の周囲一段高した部分は、伊勢早漆で銀箔を練り込んで研ぎ呂色仕上げとした。

(5-5)は銀箔のみで仕上げた。

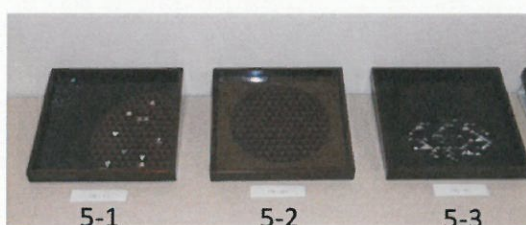
(5-4)銀箔に呂色黒漆をおとして研ぎ出したもの。

(5-3)銀箔中塗後、棕呂も細かく切り、その細片を蒔いて黒呂色漆で固め塗り塗で呂色仕上げとした。(黒に重厚さを出すため棕呂毛を蒔いた。)

(5-2)は(5-3)と同じ方法で紅柄塗で塗り込んで研ぎ出した。

(5-1)は左上の鱗文を(青貝を)はりつけ、右の鱗文には厚貝を埋め込んで変化をつけた。

以上、五枚共呂色仕上げであるが、(5-2)(5-1)の鱗文は木地蒔絵の手法で作ったもの。光線の加減で傷という等に見える場合がある。又、銀箔の固りの部分は虫喰い塗の様になり、雅味を生かす為、その俣にしてある。(古来、呪術紋として鱗紋は使用され、特に下着類によく使われて息災の意味を持つもの)



	ふりがな アーティスト名	やまぐち いさお 山口 功		
	年齢	33	創作活動の拠点	平川
	芸術家として 目指す方向性	今後もこれまで通り、自身の美術表現を深めていく。 山口市内に作品制作の拠点を置きつつ、市内外で積極的に発表を行いたい。また、講演会やギャラリートークなども実施していきたいと思っている。		



殻

防衛と接続をコンセプトとした作品である。頑丈な殻で守りつつ、しかし、外部との接続可能な小さな窓やハッチが無数にある。現代人が、自分を守りたい欲求を持ちつつ、一方では、人と結びつきたい欲求を持っている様子を、象徴的に表現している。

二つの受容器官

人間は、世界を目や耳などの感覚器官によって感じ取り、再現し、認識している。世界の感じることは、時として、自らの考えを調整せざる得なくなるストレスを生じさせる。それでも、世界を感じることができなければ自分を進化させることはできない。覚悟を決めて、徹底的に世界を感じるために立ち現れた器官を表現している。



接続装置(2016.1)

箱と殻に守られた理想の町をモチーフとし、情報収集と外部への接続に焦点を当てた作品である。自分を守りながらも、他者へ繋がることや、その繋がり方をコントロールしたいという願望を、表現している。